

## 論文内容の要約

論文名	Immunogenicity Of A Monovalent Influenza A(H1N1)pdm09 Vaccine In Patients With Hematological Malignancies 血液悪性腫瘍患者における単価インフルエンザ A(H1N1)pdm09 ワクチンの免疫原性
氏名	井手 悠一郎
<p>【目的】 血液悪性腫瘍患者はインフルエンザ合併症のハイリスクグループに位置づけられており、米国予防接種諮問委員会（ACIP）は血液悪性腫瘍患者に対する毎年の予防接種を勧告している。しかし、患者の抗体応答と関連する因子については十分に解明されていない。本研究では、血液悪性腫瘍患者を対象に、インフルエンザ A(H1N1)pdm09 ワクチンの免疫原性、および抗体応答に関連する患者特性を検討した。</p> <p>【対象】 2009 年 10 月に福岡県の M 病院を受診した血液悪性腫瘍患者 50 人（男 20 人、女 30 人；平均年齢 58.5）</p> <p>【方法】 対象者に対し、2009 年 11～12 月、インフルエンザ A(H1N1)pdm09 ワクチンを 4 週間隔で 2 回接種した。接種前、1 回目接種 4 週後、2 回目接種 4 週後に血清を採取し、赤血球凝集抑制抗体価（HI 価）を測定した。解析では、免疫原性の指標として、幾何平均抗体価（GMT）、平均上昇倍数（MFR）、抗体応答割合（sR: <math>\geq 4</math> 倍の割合）、抗体保有割合（sP: <math>\geq 1:40</math> の割合）を計算した。また、ロジスティック回帰分析により、抗体応答割合に対する患者特性の影響について、オッズ比（OR）を算出して検討した。</p> <p>【結果】 1 回目接種後の MFR は 2.3 倍、sR は 32%、sP は 27%と低値を示したが、2 回目接種によりさらなる抗体上昇が得られ、2 回目接種後の抗体価は免疫原性の国際基準を満たすレベルに達した（MFR: 3.9 倍、sR: 54%、sP: 46%）。多変量解析により抗体応答に影響する患者特性を検討したところ、リツキシマブ投与は sR を有意に低下させた（OR=0.09, P=0.05）。</p> <p>【結論】 血液悪性腫瘍患者では 1 回接種による抗体応答が低く、2 回接種が不可欠である。ワクチンに対する抗体応答は、特にリツキシマブ投与を受けていた者で低い傾向を示した。</p>	